

新たな情報通信技術戦略の策定に関する意見

1. 個人／団体の別：個人
2. 氏名／団体名：非公開
3. 連絡先：非公開
4. ご意見：

新たな IT 戦略骨子において提示された14の重点施策を拝見する限り、情報系の大学および大学院において育成すべき高度情報通信人材への施策が不十分なように思われます。

この骨子案によれば、(8)「情報通信技術の教育活用」に記述がありますが、この項は初等教育、中等教育に重点が置かれており、高等教育に関する記述がないようです。

日本の教育を米国などと比較した場合、教育の問題は初等教育や中等教育よりも高等教育に問題があるように思われます。すなわち、小学校から高校まではそれなりに児童や生徒を勉強させていますが、大学や大学院において、ICT 技術を使いこなし、社会においてイノベーターにふるまえる人材を育てきれていないという認識です。

このためにはとくに大学や大学院の前期博士課程で、社会に出て活躍できる先導的な ICT 人材の育成が重要と考えます。そのためには、情報系の大学や大学院の教育を、より実践的な社会のニーズを反映したものにしていくことが重要と考えます。そのためには教育分野における産業界と大学のより緊密な連携が必要です。

また(12)「デジタルネイティブといわれる若い世代の能力を活かせる環境を整備」の36に高度情報通信技術人材の育成・登用の推進についての記述があります。これについてはまさにその通りですが、この手の人材育成には時間がかかります。ある程度長期的な計画で、高度情報通信人材の育成を計る必要があります。

なお、このタイトルの「デジタルネイティブといわれる若い世代」についてですが、大学教員の実感としては、日本における ICT 技術に関する積極性は、若い世代においては不十分で、むしろ「指示待ち、消極的な人間」が増えているという実感です。

日本経済や日本における ICT 技術は、20 年間でやや停滞しており地盤沈下が進んでいるのではないのでしょうか。今後、日本が世界の中でやっていくためには ICT に関して先導的なマインドを持ち、社会のイノベーションを先導できる人材を育てることが重要と考えます。

高度情報通信人材の育成については是非、戦略本体の重点項目として明記していただければと思います。

以上